



あかまつ

七飯町立七重小学校
学校だより No.3
R3年6月30日

運命は自分の手足がつくる～能力は誰にでもある～

七飯町立七重小学校長 本 多 宏 至

『ファール昆虫記』を小学生から中学生時代にかけて、繰り返し繰り返し読んでいたとは、日本人で初めてノーベル化学賞を受賞した福井謙一博士である。それまで経験的に知られていた有機化学反応を、なぜそれがおこるのか、なぜこの反応は起こらないのか、という体系的な理論を確立させた点が受賞に結びついた。振り返ってみれば、『ファール昆虫記』を繰り返し読んでいく中、「なぜ」を通して考えていたことがノーベル化学賞受賞の大きなヒントになったということ。

繰り返し練習し、フェアプレイ発表会を終えた本校の子どもたち。思った以上に準備や移動に時間等がかかり、残念ながら練習時間が短くならざるを得なかった日もあったであろうと考える。世の中はすべてが計画通りに進むものではなく、常に状況を判断して対処していくことが求められる。今回のフェアプレイ発表会での体験を通して、子どもたちには学年相応の「計画する力」「計画を実行する力」「進捗状況を分析して的確に変更する力」「最後までやり通す力」が育ったと感じている。また、子どもたちは学校で多くのことを学ぶ。その中では、適切な人間関係を作り上げていく力を身につけることも大切なことである。集団での活動が多くあるフェアプレイ発表会は、大切な機会であったと考える。

さて、陸上競技男子100mの世界記録保持者は、ジャマイカのウサイン・ボルト選手であることは、みなさんご存じのことと思う。その記録は9秒58であり、単純に計算すると1秒間に10mは移動できる。教室の黒板から後ろの壁までは約8mである。1秒とかからないことになる。調べてみると今から100年ほど前の1912年（大正元年）には、10秒6が最初の世界記録として残っている。それから100年程かかって1秒間短縮できたわけである。今後どれだけ短縮できるのだろうか。人類はどれだけ速く走ることができるかを、医学的に研究したことがあったと聞いたことがあり興味がある。

ところで、陸上選手だけでなく、「自己ベストの更新」とよく聞く。陸上競技の走ることに関しては特にアクシデントがなければ以前の記録からある程度順位を予想はできそうである。しかし、選手にとっては順位だけが大切ではなく、自己ベストをどれだけ更新できるかも大切だとのこと。ライバルは今隣にいる他人ではなく、昨日までの自分となる。このことは運動だけではなく、いろいろな場面でも言えることで、やはり最後まであきらめずに努力し続けることが大切なのだと。

1学期も残すところ3週間余り。学校では多くの子どもたちが、お互いに影響を与えながら過ごしている。その影響は必ずしも心地よいものばかりではない。不愉快なこともあるが、それらのストレスを自分で解消できる力を、いろいろな経験を積み重ねて身に付けさせていくことも大切なことである。日々の学習活動や各種行事等、一つ一つの教育活動における営みを通して徐々に力をつけてきている本校の子どもたちである。しかし、この後も気を緩めることなく、地に足のついた学校生活に心がけさせながら夏休みを迎えさせたい。